

## Redistributing the Gains from Trade through Non-Linear Lump-Sum Transfers : 要旨

甲南大学 市野泰和

ある国が閉鎖経済から自由貿易に移行すると、その国ではそれによって豊かになる人と貧しくなる人が出てくる。しかし、各個人が閉鎖経済のもとで消費していたバンドルを、自由貿易のもとでも消費することを保障するような一括所得移転 (lump-sum transfer) を政府が行えば、貿易自由化によってすべての人の厚生を高めることが可能となる。ところが、そのような一括所得移転の実施にあたっては、政府が個人の選好や要素賦存量を知っているという暗黙の前提が置かれていることや、各個人が閉鎖経済での自分の消費バンドルを政府に正直に表明する誘因を持たないことなどが問題点として指摘されてきた。

本研究の目的は、これらの問題点を明示的に考慮し、一括所得移転による貿易自由化の利益の再分配の可能性について探ることである。より具体的に言えば、政府が個人の選好や要素賦存量を知らず、政府にできるのは各個人が行う取引量を観測することのみ、という場合、政府は、閉鎖経済での各個人の取引量にもとづいて貿易自由化後に各個人に与える移転額の大きさを決めることになるが、そうすると、各個人は、自分の受け取る移転額の大きさに影響を与えるために閉鎖経済での消費行動を変えてしまう (Wong(1997)に倣い、そのような消費行動の変化を“consumption falsification”と呼ぶ)。それにもかかわらず、政府は、そのような一括所得移転を実施することで自由貿易による経済厚生を増加をすべての個人にもたらすことができるのだろうか、という問いに答えることが本研究の目的である。

本研究に先行する論文、Ichino (2012)では、閉鎖経済での消費バンドルを貿易自由化後も保障する一括所得移転に代表されるような、各個人の閉鎖経済での取引量について線型である移転ルールを考えると、一括所得移転を通してすべての個人の厚生を高めることができる場合は存在するが、それは非常に限られたものであることを示した。

本研究では、考察する移転ルールの範囲を非線型にまで広げる。各個人の要素賦存量を、政府にとって未知の各個人の「タイプ」ととらえ、契約理論で使われる標準的な手法を援用して、政府の予算制約、各個人の誘因両立制約、およびすべての個人の経済厚生が自由貿易によって高められるという制約のもとで、経済厚生を最大化する一括所得移転ルールを求める問題を解く。その結果、個人の割引因子が十分に大きい場合、あるいは、政府が所得移転に使える予算が十分に小さい場合には、解がない、すなわち、自由貿易による経済厚生を増加をすべての個人にもたらすような所得移転ルールが存在しないことがわかった。その原因は、consumption falsification による閉鎖経済での均衡価格の低下にある。したがって、閉鎖経済での価格が consumption falsification の影響を受けないよう、貿易の禁止ではなく、禁止的関税や価格支持によって閉鎖経済を維持すれば、上述の「解なし問題」は部分的に改善されることになる。

また、本論文で考察される貿易自由化の利益分配は、貿易自由化前の個人の取引にもとづいて貿易自由化後に一括所得移転をするものであるが、これを、Feenstra and Lewis (1991)での、貿易自由化後の個人の取引にもとづいて一括所得移転をする分配政策と比較すると、前者の場合の経済厚生が後者の経済厚生を下回ることがわかった。

### 参考文献

- Wong, Kar-yiu (1997), “Gains from Trade with Lump-sum Compensation,” Japanese Economic Review, Vol 48(2) 132-146.
- Ichino, Yasukazu (2012), “Transaction Falsification and the Difficulty of Achieving Pareto-Improving Gains from Trade through Lump-Sum Transfers,” Review of International Economics, Vol. 20(2) 430-438.
- Feenstra, Robert C. and Tracy R. Lewis (1991), “Distributing the Gains from Trade with Incomplete Information,” Economics and Politics Vol. 3(1) 21-39.